

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員 中村 陽市			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学Ⅰ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、消化器系・循環器系・呼吸器系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 参考書：やさしい解剖学 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 医学書院						専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	総論、組織学					解剖学とは何か、身体を構成している組織について説明できる。					
2	骨格系、消化器系					骨の名称を覚え、消化器系の形態と機能を説明できる。					
3	消化器系：口腔、咽頭					口腔・咽頭。嚥下反射を説明できる。					
4	消化器系：食道、胃					食道・胃の構造と機能を説明できる。					
5	消化器系：小腸					小腸の構造と機能を説明できる。					
6	消化器系：大腸					大腸の構造と機能と特徴を説明できる。					
7	消化器系：肝臓、脾臓、胆嚢、腹膜					肝臓・脾臓・胆嚢・腹膜の構造と機能を説明できる。					
8	循環器系：血管					血管(動静脈、毛細血管)の構造と機能と特徴を説明できる。					
9	循環器系：心臓					心臓の位置、各部の名称、弁の機能を説明できる。					
10	循環器系：心臓、動脈系					刺激伝導系、大動脈の名称を述べることができる。					
11	動脈系：頭頸部に分布する動脈					総頸動脈から分枝する動脈の名称と機能を説明できる。					
12	動脈系：上肢、下肢、腹部に分布する動脈					上・下肢、腹部に分布する動脈の名称と機能を説明できる。					
13	静脈系：特殊循環系、胎生期の循環系					特殊循環系および胎児循環を説明できる。					
14	リンパ系					リンパ系の構造と機能を説明できる。					
15	期末試験										
〔評価について〕 小テスト(3回)30点満点＋期末試験70点満点で59点以下を不合格とする						〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員 曾我浩之			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
生理学Ⅰ											
〔授業の学習内容と心構え〕											
生理学Ⅰでは、外界の情報を得るための感覚器、外界の変化に対応して行動するための運動器と、両者の間に立って情報を処理し、運動を指令する神経系について学ぶ。解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることが目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。											
〔到達目標〕											
ヒトが外界の情報を得るための感覚器、外界の変化に対応して行動するための運動器と、両者の間に立って情報を処理し、運動を指令する神経系についての基礎的事項を理解し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版(医学書院)						授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後はノートを整理し、「理解度確認テスト」に取り組むこと。					
毎回講義ノートを配布する											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	生理学で何を学ぶか					生理学の基礎的な用語について説明できる					
2	細胞の生理学(1)					細胞の構造と機能について説明できる					
3	細胞の生理学(2)					静止電位、活動電位、興奮の伝導について説明できる					
4	神経の生理学					神経系の機能とシナプス伝達について説明できる					
5	筋の生理学(1)					骨格筋、平滑筋の構造と機能について説明できる					
6	筋の生理学(2)					骨格筋収縮の特性、筋と運動について説明できる					
7	骨の生理学					骨の構造と機能について説明できる					
8	中枢神経系の生理学(1)					脊髄、脳幹の機能について説明できる					
9	中枢神経系の生理学(2)					小脳、間脳、大脳の機能について説明できる					
10	中枢神経系の生理学(3)					高次脳機能、伝導路・髄液の機能について説明できる					
11	感覚の生理学(1)					感覚の一般的特性と体性感覚について説明できる					
12	感覚の生理学(2)					視覚について説明できる					
13	感覚の生理学(3)					聴覚・味覚・嗅覚について説明できる					
14	生理学Ⅰ講義内容のまとめ					生理学Ⅰで何を学んだかを説明できる					
15	期末試験					期末試験による理解度の把握と解説					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は学則規定に準じ、理解度確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。						毎回の授業ごとに配布する講義ノートは、あくまで板書の代わりになるものであり、これを基に各自が自分のノートを作成すること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						田中 信一			
リハビリテーション概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	15 (1)	授業回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 医療人としての事象の捉え方、対応を身につけるために、リハビリテーションとは何かについて、その理念と歴史的 背景、障がいの概念、リハビリテーションの過程、医療福祉制度の知識を身につける授業を臨床現場でリハビリテー ションに携わっている教員が行なう。授業では、必要に応じてテーマを設定し、グループで発表を行う。理解を深めるた め、積極的に参加してほしい。									
〔到達目標〕 ・リハビリテーションの定義、領域、過程を理解し、説明することができる。 ・リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 参考文献:入門リハビリテーション概論(医歯薬出版) 理学療法概論テキスト改訂3版(南江堂)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	リハビリテーションの理念、定義、語源、歴史 障がい者の「自立」とノーマライゼーション				リハビリテーションの理念、定義について説明するこ とができる。				
2	医療、保健、社会福祉とリハビリテーションの関わり方 リハビリテーションの領域				リハビリテーションの領域を区別することができる。				
3	健康と障がいの概念と障がい受容 ICIDHとICF				健康と障がいの概念と障がい受容について説明す ることができる。				
4	ICIDHとICFの具体例 ICIDHとICFのメリットとデメリット				ICIDHとICFの項目を区別し、要素を分類することが できる。				
5	リハビリテーションに関わる法律および制度				リハビリテーションに関わる法律および制度を区別 することができる。				
6	リハビリテーションにおける重要事項 インフォームドコンセント、チーム医療、EBM、個人情報保護法				リハビリテーションにおける重要事項のキーワードを 説明できる。				
7	リハビリテーション現場における理学療法士				理学療法士の仕事のやりがいを説明できる。				
8	総括 定期試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところ を把握し、理解度を深める。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕 評価は小テストおよびオンライン試験で行う。 小テスト40% オンライン試験60%				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 授業ごと小テストを実施する。 出席:3コマ欠席にて単位なし					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								森 洋行 先生			
救急医学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
【授業の学習内容と心構え】											
ライフセーバーとして救命現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救急現場の実際を交えながら授業を行う。ライフセービングの精神を理解することで単にBLS(Basic Life Support)の技術的な習得で完結するのではなく、大切な人の命を見つめ、社会復帰率の向上に貢献できるようにする。											
【到達目標】											
生命教育を通じ、救急隊・医師へと引き継ぐまでの数分間の視点(バイスタンダー)をもって、救急救命を“知っている”という体験レベルから“生命を救うことが出来る”という実践レベルへ、質の高い知識と技術の習得を目指す。日本ライフセービング協会公認BLS資格を取得する。											
【使用教材、参考文献等】						【準備学習・時間外学習】					
「心肺蘇生教本」(日本ライフセービング協会) 教材:レザシアン、AED 参考図書:「AT専門課程テキスト・救急処置」JSPQ						授業で行ったことを反復練習により確実に身に付けられるようにする。自身の行動範囲においてAED設置場所を確認しておく。					
回	【授業概要】					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 心肺蘇生の意義と理論、気道異物除去					一次救命処置の重要性と救命の連鎖を理解する 心肺蘇生の意義と理論を理解する					
2	心肺蘇生の実際					心肺蘇生の手順を習得する					
3	治療の優先順位について AEDの必要性と操作手順、RICE処置					AEDの必要性を理解する					
4	熱中症への対処と予防、心肺蘇生の実際 小児・乳児の一次救命処置					AEDの手順を習得する 小児・乳児の心肺蘇生を理解する					
5	外傷時の救急処置1(創傷の種類と止血法) 心肺蘇生の実際					皮膚などに傷のあるけがの処置を習得する 救命率を上げる質の高い心肺蘇生を習得する					
6	外傷時の救急処置2(熱傷)、運搬法 心肺蘇生の実際					救命率を上げる質の高い心肺蘇生を習得する					
7	BLS資格実技検定及び解説 心肺蘇生の実際(2人法)、新型コロナ感染症を踏まえたBLS					正しい心肺蘇生の一連動作を実施する					
8	期末試験、BLS資格学科検定					日本ライフセービング協会公認BLS資格を取得する					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
【評価について】						【特記事項】					
評価は期末試験(筆記70点)及びBLS資格検定(学科および実技30点)で行う。 評価は学則規定に準ずる。						授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 動きやすい服装(女性はズボン着用)が望ましい。					

東京メディカル・スポーツ専門学校

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員 鈴木広大			
授業科目名 運動学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけけるようにしてもらいたい。											
〔到達目標〕 1)運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2)生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	手指の運動学2					手関節背屈・底屈・橈屈・尺屈に作用する筋肉を覚える					
17	手指の運動学3					手指の屈曲に作用する筋肉を覚える					
18	手指の運動学4					手指の伸展に作用する筋肉を覚える					
19	上肢の運動学まとめ1					上肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
20	上肢の運動学まとめ2					上肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
21	上肢の運動学発表					肩関節の運動についてわかったこと、覚える必要のあるものを発表する(授業内課題25点分:発表10点・小テスト提出15点)					
22	体幹の運動学1					体幹の解剖学的構造と運動を覚える					
23	体幹の運動学2					体幹の屈曲・伸展運動に作用する筋肉を覚える					
24	体幹の運動学3					体幹の側屈・回旋運動に作用する筋肉を覚える					
25	体幹の運動学4					体幹の呼吸に作用する筋肉を覚える					
26	体幹の運動学まとめ1					体幹に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
27	体幹の運動学まとめ2					体幹に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
28	体幹の運動学発表					体幹の運動についてわかったこと、覚える必要のあるものを発表する(授業内課題25点分:発表10点・小テスト提出15点)					
29	期末試験					前期に学んだ内容の復習としてテストを行い、覚えられていないことの抽出を行う					
30	テスト返しと復習					テストを通して出来なかったところを抽出し復習を行う					
〔評価について〕 評価は発表点と筆記試験で行う。 授業内課題(50点)期末テスト(50点)					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						石川 和美			
ITリテラシー		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学、専門学校、企業、PCスクールでOffice系資格対策講座の実施経験があり、有資格者の教員が授業を実施します。Windows(ハード)で、MicrisoftOffice(Word=効率が良く効果的な文書作成する。Excel=様々な計算処理を行い必要書類を作成し、また顧客のデータを管理する。PowerPoint=プレゼンテーションを作成し発表する。)将来の仕事で活用するだけではなく、学生生活において様々な学習にも活用出来るように学習していきます。									
〔到達目標〕									
学習を通し、社会へ出た際、どのようなジャンルの仕事であっても、事務処理に困らないためのスキルを習得します。操作をマスターし、さらに機能の理解を深め、将来自分自身の仕事に役立つ使い方が出来るよう学習していきます。									
〔使用教材、参考文献等〕									
随時、必要に応じてプリント配布									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	Wordの基本操作 文書作成の基本的な流れ 範囲選択コピーと移動 書式設定 ファイルを保存する				書式設定を活用し、文書を作成する事が出来る。 作成した文書の保存が出来る。				
2	表現力をアップする機能(画像の挿入と編集) 文書の印刷・表作成機能				文書に画像を挿入し、編集が出来る ページ罫線を配置し文書を装飾出来る 学習した機能を利用しチラシを作成出来る 作成した文書を印刷出来る				
3	ページ設定(用紙サイズの設定・余白の設定・印刷の向きの設定)ハガキ作成 (小テスト)				必要に応じて、用紙サイズや余白、印刷の向きを設定出来る。学習した機能を利用し、指定された各種はがきを作成出来る(販促・お知らせ)				
4	Wordの図形描画機能を理解し操作が出来る。 簡略地図を作成する／館内案内図を作成する				図形描画機能がわかり、自由に操作が出来る。 学習した機能を利用し、簡略地図が作成出来る／館内案内図を作成出来る				
5	表作成(小テスト)				Word機能で表作成と編集が出来る				
6	ビジネスメールの作成① ビジネスメールのマナーとメールの作成・送受信				ビジネスメールのマナーと正しいレイアウトがわかりメールを作成する事が出来る				
7	ビジネスメールの作成② 好感を持たれるメールの作成と送信・返信・転送				相手の状況に応じた気遣いのあるメールの文章を作成出来る/返信・転送のマナーがわかり、正しいマナーでメールを作成し送受信できる				
8	ビジネスメールの作成③ 添付ファイルのマナーとメールの活用(小テスト)				添付ファイルのマナーがわかり、正しいマナーでメールを作成し送受信できる				
9	Excelの基本操作 表の作成と、関数の基礎(SUM関数/AVERAGE関数/MAX関数)				四則演算が出来る 基本の関数を活用出来る (SUM/AVERAGE/MAX関数)表に桁区切りを設定出来る。表の書式を自由に変更する事が出来る(線の種類・セルの色・配置)				
10	表の作成と、関数の基礎2(COUNT関数/IF関数/RANKEQ関数)				関数基礎2 使用頻度の高い関数を活用する				
11	グラフを作成する グラフ構成要素の書式の設定方法				どんな分析にどのようなグラフが必要かわかる(棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ)入力したデータから簡単な操作でグラフを作成出来る				
12	テンプレートの活用 (小テスト)				テンプレートをダウンロードし活用する				
13	PowerPointの基本操作 PP課題作成①				ブレースフォルダの編集・アニメーションの設定・ノートページの入力が出来る。PowerPointで課題を作成出来る。				
14	PP課題作成② (小テスト)				PowerPointで課題を作成出来る② 課題を完成出来る				
15	期末試験実施				期末試験として課題を提出出来る。課題の発表が出来る。評価と評価の解説を実施する。				
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする				〔特記事項〕 2回目以降、毎回10分間のタイピング練習を行い、タイピングスキルを鍛えて、ブラインドタッチの習得を目指します。 ブラインドタッチは全てのPC作業を効率よく出来るため、マスターしたいスキルです。ぜひ積極的に参加してください。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名						本田勝久			
理学療法概論		必修・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
①我が国における理学療法に成り立ちを理解する ②チーム医療の中の理学療法業務を理解する ③理学療法が介入する代表的な疾患の概要を理解する 総合病院勤務経験した教員から各疾患に対する理学療法士役割を学ぶ									
〔到達目標〕 ①理学療法の歴史を含め業種の概要を理解する ②理学療法で介入する代表的疾患を理解する									
〔使用教材、参考文献等〕 シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト改訂第3版（南江堂）									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	理学療法の定義・役割・歴史			PTとリハビリの関係・日本と海外の定義の違いを理解する					
2	理学療法の法的身分・職域・関連職種			医療保険・介護保険下での理学療法士を理解する					
3	理学療法実施過程			チーム医療の重要性を理解する					
4	理学療法と疾患			理学療法の対象疾患を理解する					
5	肢体不自由			肢体不自由の原因・病態を理解する					
6	平衡機能障害			平衡機能障害の病態を理解する					
7	理学療法士に必要な資質			医療職として在るべき資質を理解する					
8	中間試験・振り返り・内部障害			試験の振り返り・内部障害を理解する					
9	理学療法の思考と手段			障害構造に基づいた適切な技術の選択と実施					
10	筋骨系障害に対する理学療法			筋骨系障害に対する理学療法を理解する					
11	神経・筋に対する理学療法			神経・筋に対する理学療法を理解する					
12	呼吸・循環障害に対する理学療法			呼吸・循環障害に対する医学療法を理解する					
13	外傷・褥瘡・潰瘍・熱傷などの皮膚障害に対する理学療法			皮膚障害に対する理学療法を理解する					
14	発達障害・高齢者に対する理学療法			発達障害・高齢者に対する理学療法を理解する					
15	期末試験			筆記試験を行う					
使用テキスト・参考文献			〔特記事項〕						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								田中 信一			
運動機能論Ⅰ		必修・選択		必須		授業形態	講義	時間数	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を理解していく。 理学療法士を目指すものにとって、骨格、関節の構造を知ることが重要であり、三次元的な視点で個々の骨、関節の構造や位置を十分に理解しておく必要があることを念頭に受講してほしい。											
〔到達目標〕											
・骨名と各部位の名称、関節の名称を述べるができる。 ・骨、関節の構造、形態を分類できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学 第5版（医学書院）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第1章;解剖学総論 人体の概要と解剖学的用語					解剖学的位置、方向と位置を示す用語、身体の区分を述べるができる。					
2	第2章;第2章;骨格 人体の骨名称 骨格 骨の構造					人体の骨の名称を述べるができる。 骨の構造を述べるができる。					
3	第2章;骨格 骨学各論 胸郭、上肢帯、上腕骨(近位部)					各骨を区別できる。胸郭、上肢帯、上腕骨(近位部)の各部位の名称を述べるができる。					
4	第3章;関節と靱帯 関節靱帯各論 上肢帯の連結、肩関節					上肢帯の連結、肩関節の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。					
5	第2章;骨格 骨学各論 上腕骨(遠位部)、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨					上腕骨(遠位部)、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨の各部位の名称を述べるができる。					
6	第3章;関節と靱帯 関節靱帯各論 肘関節、手根の関節					肘関節、手根の関節の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。					
7	第3章;関節と靱帯 関節靱帯各論 中手の関節、指の関節					中手の関節、指の関節の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。					
8	確認テスト 前半の振り返り					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	第2章;骨格 骨学各論 下肢帯、骨盤					下肢帯の各部位の名称を述べるができる。骨盤の構造と性差を述べるができる。					
10	第2章;骨格 骨学各論 大腿骨 第3章;関節と靱帯 関節靱帯各論 股関節					各骨を区別できる。大腿骨の特徴を述べるができる。股関節の特徴を説明できる。					
11	第2章;骨格 骨学各論 脛骨、腓骨 第3章;関節と靱帯 関節靱帯各論 膝関節、足関節					各骨を区別できる。脛骨、腓骨の特徴を述べることができる。膝、足関節の特徴を説明できる。					
12	第2章;骨格 骨学各論 足根骨、中足骨、趾骨 第3章;関節と靱帯 関節靱帯各論 足部の関節					各骨を区別できる。足根骨、中足骨、趾骨の各部位の名称を述べるができる。					
13	第2章;骨格 骨学各論 脊柱の骨 第3章;関節と靱帯 脊柱の連結					脊柱の骨の各部位の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。					
14	第2章;骨格 骨学各論 頭蓋 第3章;関節と靱帯 頭蓋					頭蓋の骨の各部位の名称を述べるができる。また、関節の形態を分類できる。					
15	期末テスト 後半の振り返り					運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 小テスト、課題(20%) 確認テスト(40%) 期末テスト(40%)					〔特記事項〕 小テスト(または課題)は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 温 龍太郎、堀内 秀則			
授業科目名 理学療法基礎科学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 Science(サイエンス)を、理学療法に関わる知見を通し、学んでいく。 「学ぶ」とは、本来、主体的になされるもの。また、他者に説明できて初めて理解できていると言える。したがって、自分で調べ、他者に伝えるよう分かりやすくまとめ、発表する、といった作業を実践し、自身の学びとする。											
〔到達目標〕 最低限、自身の担当トピックについて理解できるのは勿論だが、その他のトピックについても他者に説明できるよう努力してほしい。また、あるトピックについて自分で調べ、まとめる、という方法そのものをこの科目で学んでほしい。それが「学ぶ」「勉強する」ということに他ならないのだから。											
〔使用教材、参考文献等〕 特になし											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション					複数のテキストを用いて調べることができる					
2	プレゼン資料作成①					あるトピックについて、テキストやインターネットを駆使して調べられる					
3	プレゼン資料作成②					あるトピックについて調べた内容を、パワーポイントを使用してまとめられる					
4	プレゼンおよび解説①					調べた事柄を他者に分かりやすく伝達できる					
5	プレゼンおよび解説②					同上					
6	プレゼンおよび解説③					同上					
7	プレゼンおよび解説④					同上					
8	プレゼンおよび解説⑤					同上					
9	プレゼンおよび解説⑥					同上					
10	プレゼンおよび解説⑦					同上					
11	プレゼンおよび解説⑧					同上					
12	プレゼンおよび解説⑨					同上					
13	プレゼンおよび解説⑩					同上					
14	プレゼンおよび解説⑪					同上					
15	プレゼンおよび解説⑫					同上					
〔評価について〕 出席状況のほか、提出物の提出期限が守られているか、提出物の内容は充分か、他者の発表を聴く姿勢はあるか等の項目から評価します。					〔特記事項〕 積極性を重視します。積極的な発表、質問があることを期待します。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		岩佐 浩之									
心理学		必修・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 毎回の授業で配布					〔準備学習・時間外学習〕 世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	目標設定・講師自己紹介・オリエンテーション15回の流れ					目標設定の仕方・目標とは何かを理解する。 目標を立てられるようになる。					
2	人脈					人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。 自分の人脈を整理する。					
3	経済的健康 その1 収入の種類					・従業員 ・自営業 ・オーナー ・投資家など収入の種類を理解する。					
4	目標達成の仕方					①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。					
5	目標達成の仕方					⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒⑨仲間探し 15のステップ一つ一つを理解する。					
6	精神的健康					心の病気について知り、対処法を身に付ける					
7	身体的健康					病気のメカニズム・対処法を身に付ける。					
8	心理テスト					エゴグラムの実施 自分の心の癖を知る。					
9	マーケティング(流通心理学)・マネジメント					自分自身を社会にどう売り出していくか学ぶ					
10	マーケティング(流通心理学)・マネジメント					様々なマーケティングの基本理論を学ぶ					
11	マーケティング(流通心理学)・マネジメント					様々な企業のマーケティングを学ぶ					
12	コトラー心理学					コトラー心理学の基本を学び、自分の考え方に取り入れる					
13	スティーブン・コーヴィ					7つの習慣を中心に、考え方の基本を学び、いつか使えるようになる。					
14	質疑応答					稲盛和夫の考え方を学ぶ。					
15	定期テスト										
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員 田中 信一、本田勝久			
授業科目名 いのちの倫理		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	15 (I)	授業回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 現在、人間の生命をめぐるどのような問題が生まれ、どのような議論があり、何が問われているのかを学び、医療における倫理観と患者やその家族の思いを推測できる力をつける授業を行なう。授業では、問われている内容を理解し、個人ワーク、グループ共有により理解を深めるため、積極的に参加してほしい。									
〔到達目標〕 ・いのちの「始まり」と「終わり」の間に起こる様々な問題に対し、患者、医療者、患者の家族の視点より推測できる。 ・現代医療における生と死、医療の問題を説明できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 入門リハビリテーション概論(医歯薬出版) 理学療法概論テキスト改訂3版(南江堂)									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	倫理とはなにか。生命倫理の最初の問題あなたは、薬や医療設備が足りないとき、治療するひとを選んでもいいと思いますか。			倫理と道徳、法律との違いを区別できる。					
2	いのちの終わりは誰がきめるのか。 自己決定権、延命治療、安楽死、尊厳死、セデーション(鎮静)			生命の尊さを認識し、死に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。					
3	いのちの始まりはいつか 人工妊娠中絶、			生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
4	いのちの始まりはいつか 出生前診断			生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
5	告知とインフォームドコンセント 告知の是非について			告知における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。					
6	こどもの医療、判断能力は誰が決めるのか。子どもの人権と親権 New トピックス			子どもの知る権利における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。					
7	生体臓器移植 一般の死と脳死の違いについて			臓器移植に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる					
8	総括			授業全体を通して学んだ内容を振り返り、授業内容に対する理解を深める。					
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕 評価はレポートで行う。 評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 出席:3コマ欠席にて単位なし					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								温 龍太郎			
理学療法評価概論				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

理学療法を施行するにあたっての、適切な評価方法を学ぶ。病態を機序から学んだうえで、安全な検査・測定を実施できるよう座学と実技にて授業を行なう。動きやすい服装で授業に臨むこと。また、授業ごとに予習・復習を欠かさないよう充分留意すること。

〔到達目標〕

理学療法における身体機能・認知機能の評価方法を正しく理解し、安全かつ正確に行なえるようになること。また、学んだ知見を他者に分かりやすく、正確に伝えられるようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社）、授業プリント

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	総論①	評価を何のために行うのか理解できる。
2	総論②	検査の信頼性・正確性を理解できる。
3	意識の評価①	覚醒状態の評価方法を理解できる。
4	意識の評価②	呼吸状態の評価方法を理解できる。
5	意識の評価③	パルスオキシメーターを正しく扱える。
6	血圧測定①	血圧の本質を理解する。
7	血圧測定②	血圧測定を実施できる。
8	血圧測定③	血圧の意味を理解する。
9	認知機能検査①	脳解剖を理解する。
10	認知機能検査②	認知機能とは何かを理解する。
11	認知機能検査③	各項目の意味を理解する(1)
12	認知機能検査④	各項目の意味を理解する(2)
13	認知機能検査⑤	各項目の意味を理解する(3)
14	認知機能検査⑥	認知機能検査を実施できる。
15	期末テスト	前期の内容を総復習する。

〔評価について〕

筆記試験を行なう。
1点×10問の小テスト13回分（50%）、ならびに、1点×60問の期末テスト1回分（50%）にて評価する。

〔特記事項〕

評価学は、主要三教科すなわち解剖学・運動学・生理学を統合した学問である。これら三教科を横つなぎで理解すること。また、病理学ならびに薬理学も同時に学んでいく。したがって、情報を整理する術を身につけることが肝要。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 曾我浩之先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
生理学Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕									
生理学Ⅱでは、循環、呼吸、消化、排泄など体内の環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについて学ぶ。 解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることが目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。									
〔到達目標〕									
循環、呼吸、消化、排泄など体内環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについての基礎的事項を理解し、説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版(医学書院) 毎回講義ノートを配布する					授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後はノートを整理し、「理解度確認テスト」に取り組むこと。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	血液の生理学				血液の機能について説明できる				
2	循環器の生理学(1)				循環器の機能、心電図について説明できる				
3	循環器の生理学(2)				血圧と心臓の収縮特性について説明できる				
4	循環器の生理学(3)				血液循環とその調節について説明できる				
5	内蔵機能の調節(1)				自律神経系について説明できる				
6	内蔵機能の調節(2)				内分泌系とヒトのホルモンについて説明できる				
7	呼吸器の生理学				呼吸器の機能について説明できる				
8	泌尿器の生理学				泌尿器の機能について説明できる				
9	体液と体温				体液の機能と体温の調節について説明できる				
10	栄養素と代謝				栄養素と代謝について説明できる				
11	消化器の生理学(1)				消化管の機能について説明できる				
12	消化器の生理学(2)				栄養素と吸収、肝臓の機能について説明できる				
13	生殖と発生(1)				生殖器の機能について説明できる				
14	生殖と発生(2)				ヒトの発生・成長・老化について説明できる				
15	期末試験				期末試験による理解度の把握と解説				
〔評価について〕 評価は学則規定に準じ、理解度確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。					〔特記事項〕 毎回の授業ごとに配布する講義ノートは、あくまで板書の代わりになるものであり、これを基に各自が自分のノートを作成すること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		解剖学Ⅰ						中村 陽市 先生			
		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、呼吸器系・神経系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 参考書：やさしい解剖学 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 医学書院				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。							
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	呼吸器系：鼻腔、咽頭				鼻腔、咽頭の構造と機能を説明できる。						
2	呼吸器系：喉頭、気管、気管支				喉頭、気管、気管支の構造と機能、発声の仕組みについて説明できる。						
3	呼吸器系：肺				肺の構造を説明できる。						
4	呼吸器系：胸膜、縦郭				胸膜、縦郭の構造を説明できる。						
5	神経系総論：神経系の区分、神経組織				神経系の構造と機能を説明できる。						
6	髄膜、脳室系				髄膜と脳室系の構造と機能を説明できる。						
7	中枢神経系：脊髄				脊髄の構造と働きを説明できる。						
8	中枢神経系：脊髄				脊髄の構造と働きを説明できる。						
9	上行性伝導路、下行性伝導路：錐体路、錐体外路				上行性伝導路の経路、下行性伝導路(錐体路・錐体外路)を説明できる。						
10	視覚伝導路、嗅覚伝導路、脊髄反射				視覚伝導路・嗅覚伝導路・脊髄反射を説明できる。						
11	中枢神経系：延髄、橋				延髄・橋の構造と機能を説明できる。						
12	中枢神経系：延髄、橋				延髄・橋の構造と機能を説明できる。						
13	中枢神経系：網様体、中脳、小脳				網様体・中脳・小脳の構造と機能を説明できる。						
14	中枢神経系：間脳				間脳の構造と機能を説明できる。						
15	大脳基底核				大脳基底核の構造と機能を説明できる。						
〔評価について〕				〔特記事項〕							

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		中村 陽市 先生									
解剖学Ⅰ		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
基礎医学の研究と教育に長年従事した医学博士が、今後医学的な知識を得るための基礎となる人体の正常な形態と構造をその機能と関連付けて教授する。解剖学で人体の基本構造を学習することは、今後の臨床医学にとって基礎となり理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の基本構造を学習し、神経系についてその構造、形態的な特徴や機能を理解し、説明できることを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 教科書：標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 参考書：やさしい解剖学 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 医学書院					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため講義後の復習を中心に名称や機能を理解することを望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	大脳半球				大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。						
2	大脳半球				大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。						
3	大脳半球				大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。						
4	末梢神経系：脊髄神経				大脳半球の機能局在構造と機能を説明できる。						
5	脊髄神経：頸神経叢				脊髄神経とは何か、さらに頸神経叢の構成と機能を説明できる。						
6	脊髄神経：腕神経叢				腕神経叢の構成を説明できる。						
7	脊髄神経：腕神経叢の枝				筋皮神経・腋窩神経などの筋枝と皮枝を説明できる。						
8	脊髄神経：腕神経叢の枝				正中神経・橈骨神経・尺骨神経の筋枝と皮枝を説明できる。						
9	脊髄神経：胸神経、腰神経叢				胸神経・腰神経叢の筋枝と皮枝の分布域を説明できる。						
10	脊髄神経：仙骨神経叢・坐骨神経				仙骨神経叢の筋枝と皮枝の分布域を説明できる。						
11	脳神経				脳神経の名称と機能、障害を説明できる。						
12	脳神経				脳神経の名称と機能、障害を説明できる。						
13	感覚器系：外皮、嗅覚器、味覚器				外皮・嗅覚器・味覚器の構造と機能を説明できる。						
14	感覚器系：視覚器				視覚器の構造と機能、障害を説明できる。						
15	期末試験										
〔評価について〕 小テスト(6回)30点満点＋期末試験70点満点で59点以下を不合格とする					〔特記事項〕						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年 1	開講区分	後期	担当教員 松野 竜一郎 先生			
授業科目名 人間発達学					必修/選択	必修	授業形態	講義
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期において、それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。								
〔到達目標〕								
・人間発達の原則を理解する事ができるようになる ・運動発達、ハンスキルの発達、視覚・眼球発達、目と手の協調性、遊びの発達、コミュニケーションと言語の発達、日常生活活動の発達についての概要を理解する事ができるようになる。								
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学					〔準備学習・時間外学習〕			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について①			人間発達学とは何か、発達の概念、発達の原則について理解できる				
2	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について②			グループ学習で人に伝える事ができる				
3	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について①			胎生期および乳児期の特徴をまとめる事ができる				
4	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について②			胎生期および乳児期の特徴を発表する事ができる				
5	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について①			運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をまとめる				
6	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について②			運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をグループで発表できる				
7	視覚・眼球運動の発達について			視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめ発表する事ができる				
8	確認テスト解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める				
9	ハンスキルの発達について目と手の協調性について①			視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめ発表する事ができる				
10	認知機能の発達について①			認知機能の発達についてまとめる事ができる				
11	コミュニケーションおよび言語の発達について①			コミュニケーションと言語の発達についてまとめる事ができる				
12	遊びの発達、日常生活活動の発達について			日常生活活動および遊びの発達についてまとめる事ができる				
13	幼児期の発達、児童期の発達について			幼児期および児童期についてまとめる事ができる				
14	青年期、成人期、老年期の発達について			青年期、成人期、老年期についてまとめる事ができる				
15	グループ学習(幼児期～老年期)			幼児期～幼年期までの発達の流れを理解できる				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	30
				運動学							
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。 毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけるようにしてもらいたい。											
〔到達目標〕 1)運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2)生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。 3)基本動作の基礎を理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	股関節の運動学1					骨盤・股関節の構造を学び、理解する。					
2	股関節の運動学2					骨盤の運動に作用する筋肉を覚える					
3	股関節の運動学3					股関節の屈曲・伸展の作用筋を覚える。					
4	股関節の運動学4					股関節の外転・内転の作用筋を覚える。					
5	股関節の運動学5					股関節の外旋・内旋の作用筋を覚える。					
6	膝関節の運動学1					膝関節の構造を学び、理解する。					
7	膝関節の運動学2					膝関節の屈曲・伸展に作用する筋肉を覚える。					
8	足関節・足趾の運動学1					足関節・足趾の構造を学び理解する。					
9	足関節・足趾の運動学2					足関節の背屈・底屈に作用する筋肉を覚える。					
10	足関節・足趾の運動学3					足関節の回内・回外・外返し・内返しに作用する筋肉を覚える。					
11	足関節・足趾の運動学4					足趾関節の屈曲に作用する筋肉を覚える。					
12	足関節・足趾の運動学5					足趾関節の伸展に作用する筋肉を覚える。					
13	下肢の運動学まとめ1					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
14	下肢の運動学まとめ2					下肢に係る運動についてグループワークを通して学習を深める					
15	下肢の運動学発表					下肢の運動についてわかったこと、覚える必要のあるものを発表する(授業内課題25点分・発表10点・小テスト提出15点)					
〔評価について〕 評価は発表点と筆記試験で行う。 授業内課題(50点)期末テスト(50点)					〔特記事項〕 実践が入る授業では、動ける服装をすること。 提出物は、期限を守ること。正当な理由がない場合や事前の相談なく提出された場合は点数を与えない。(正当な理由なく期限を過ぎてからの相談は受け付けないので注意)						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部								
授業科目名 運動学				学年	1	開講区分	後期	担当教員 鈴木広大			
				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士になるにあたって、必要な運動の知識をバイオメカニクス、解剖学、生理学などの多くの観点より授業を行う。毎授業、しっかり復習を行い、必要な知識を身につけられるようにしてもらいたい。											
〔到達目標〕 1)運動の基礎理論・生体の構造と機能に関するキーワードに慣れ、理解に繋げる。 2)生体の運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。 3)基本動作の基礎を理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	基本的動作1(背臥位→寝返り→起き上がり)					基本動作を構成する要素を学び、理解する。					
17	基本的動作2(座位→立ち上がり→立位)					基本動作を構成する要素を学び、理解する。					
18	歩行1(歩幅・ストライドなど)					歩行時の歩幅やストライドなど用語の意味を理解し覚える。					
19	歩行2(ロッカーファンクション機能など)					ロッカーファンクション機能とはどのようなものなのか理解し覚える。					
20	歩行3(イニシャルコンタクト・ローディングレスポンス)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。					
21	歩行4(ミッドスタンス・ターミナルスタンス)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。					
22	歩行5(プレスイング・イニシャルスイング)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。					
23	歩行6(ミッドスイング・ターミナルスイング)					歩行周期の各メカニズムを理解し覚える。(授業内課題歩行レポート提出25点分)					
24	歩行7(病的歩行)					各疾患別の歩行の問題点を理解しその特徴を覚える。					
25	顔面・頸部の運動学1					顔面・頸部の運動に作用する筋肉を覚える					
26	顔面・頸部の運動学2					顔面・頸部の運動に作用する筋肉を覚える					
27	運動に必要なエネルギーについて					運動に必要なエネルギーについて学ぶ					
28	復習					後期の運動学で学んだ内容を復習する					
29	期末テスト					後期の運動学で学んだ内容を試験にて想起させ、覚えていない部分などの抽出する。					
30	期末テスト返却・復習					後期運動学期末試験を通して、出来なかった部分の復習を行う。					
〔評価について〕 評価は発表点と筆記試験で行う。 授業内課題(50点)期末テスト(50点)					〔特記事項〕 実践が入る授業では、動ける服装をすること。 提出物は、期限を守ること。正当な理由がない場合や事前の相談なく提出された場合は点数を与えない。(正当な理由なく期限を過ぎてからの相談は受け付けられないので注意)						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 田中 信一			
授業科目名	運動機能論Ⅱ	必修・選択	必須	授業形態	講義	時間数	30	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

人間の運動機能の基礎となる筋系の基礎を習得する授業を行なう。理学療法士を目指すものにとって、個々の筋の起始・停止、作用、支配神経やその髄節レベルを熟知しておく必要があることを念頭に受講してほしい。

〔到達目標〕

- ・個々の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。
- ・筋の配置を述べるができる。
- ・筋の特徴を区別することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学 第5版 (医学書院)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第4章;筋系 上肢帯の筋	骨格筋の構造を述べるができる。骨格筋の形状、作用を区別できる。
2	第4章;筋系 筋学各論 肩関節の筋、胸筋群	上肢帯の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
3	第4章;筋系 筋学各論 上腕の屈筋群、伸筋群	上腕の屈筋群、伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
4	第4章;筋系 筋学各論 肩甲帯の筋	肩甲帯の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
5	第4章;筋系 筋学各論 肩甲帯の筋、前腕屈筋群	肩甲帯の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
6	第4章;筋系 筋学各論 前腕の屈筋群	前腕の屈筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
7	第4章;筋系 筋学各論 前腕の伸筋群	前腕の伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
8	確認テスト 解説、筋学各論 手の筋	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	第4章;筋系 筋学各論 内・外寛骨筋群	内・外寛骨筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
10	第4章;筋系 筋学各 大腿伸筋群、大腿の内転筋群	大腿伸筋・内転筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
11	第4章;筋系 筋学各論 大腿屈筋群、下腿伸筋群	大腿屈筋群、下腿伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
12	第4章;筋系 筋学各論 腓骨筋群、下腿屈筋群	腓骨筋群、下腿屈筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
13	第4章;筋系 筋学各論 頸部の筋 腹部、背部の筋	頸部、腹部、背部の作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
14	第4章;筋系 筋学各論 咀嚼筋、表情筋	咀嚼筋、表情筋の作用、支配神経の名称を述べるができる。筋を区別することができる。
15	総括 期末試験	運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

小テスト、課題 30%
確認テスト35%
期末テスト35%

〔特記事項〕

小テスト(または課題)は、毎回の授業で実施し、成績評価に含まれる。授業では筋の触診法も紹介する。自分の身体で確かめ復習することを勧める。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 岩佐 浩之 先生		
授業科目名	コミュニケーション論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数 8

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本教科は対人職を目指すうえで必要なスキルとしてのコミュニケーションを身につける為に実践的に学んでいく授業である。人との違いを受け入れ共助・自助・公助・互助を意識して参加してほしい。

〔到達目標〕

言葉と態度と文章で、どの様な、相手でも状況でも、自分の気持ちや考えを伝えられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

授業ごとに必要に応じて資料配布

〔準備学習・時間外学習〕

日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	コミュニケーションの基本	皆が考えるコミュニケーションを統一する。 コミュニケーションとは何か、自分の考えを書く。
2	コミュニケーションの領域	自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対複数のコミュニケーションを知る。
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション	言葉と態度で相手に伝える技術を身に付ける。
4	トラブル・怒りを対象にしたコミュニケーション	アンガーマネジメントについて学び対処法を身に付ける。
5	サービスマインド	顧客満足・対人者の満足について理解し実践できる。
6	コミュニケーション実践①	情報共有をバーバル・ノンバーバルで実践的に学ぶ。
7	コミュニケーション実践②	コミュニケーションを通して自己開示・他者理解・自己容認・他者享受を体感する。
8	定期試験	コミュニケーション技法を筆記試験で確認する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

・評価は筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は60分とし終了後解説を行う。・筆記試験は小テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。・評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

基本的には1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップして行うため、毎回確実に内容を身に付けることを心がけること。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 岩佐 浩之 先生		
授業科目名	文章リテラシー	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数 8

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本教科は対人職を目指すうえで必要なスキルとしての文章表現技術を身につける。相手のことを考えながら文字化する魅力とポイントを身につけて欲しい。

〔到達目標〕

言葉と態度と文章で、どの様な相手でも状況でも自分の気持ちや考えを伝えられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

授業ごとに必要に応じて資料配布

〔準備学習・時間外学習〕

日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	手紙・はがき・メールのルール	実習先への御礼文が書けるようになる。
2	話し言葉と、文章言葉の違い	話し言葉と、文章言葉の違いを知り、失礼のない文章が書けるようになる。
3	尊敬語・丁寧語・謙譲語	尊敬語・丁寧語・謙譲語の違いを知り、スムーズに使い分けられるようになる。
4	自己紹介文作成 (ポエム)	読む人の興味を膨らませ、楽しませる文章が書けるようになる。
5	自己紹介文作成 (ポエム)	読む人の興味を膨らませ、楽しませる文章が書けるようになる。
6	実習日誌の書き方(感想と考察の違い)	感想と考察の違いを理解する。
7	実習日誌の書き方(感想と考察の違い)	考察で表現できるようになる。
8	定期試験	文書技術の基礎を筆記試験で確認する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

・評価は筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は60分とし終了後解説をおこなう。・筆記試験は小テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。・評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

基本的には1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップして行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		堀内 秀憲 先生									
保健体育				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義・演習	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
急性期病院、老人保健施設、訪問リハ、整形外科クリニックでの勤務経験があり、一般の方やスポーツ選手を対象に活動している理学療法士の専任教員が担当する。子どもは特にそうであるが、人の身体や能力は生活環境によって大きく影響を受ける。保健体育は、各種トレーニングや理学療法をどのように若年者～高齢者、一般の方～スポーツ選手に適用するかという部分の基礎にもなる。トレーニングの原理・原則を軸に解説を進める。											
〔到達目標〕											
・トレーニング理論、運動学習理論等を理解し、説明することができる。 ・身体の発育と運動の発達について理解し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 随時資料配布						〔準備学習・時間外学習〕 随時復讐を徹底すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業オリエンテーション 筋力増強訓練①					目的別の筋力増強訓練をお互いに体験する。					
2	筋力増強訓練と栄養					筋力増強訓練と栄養について説明することができる。					
3	トレーニングの原理・原則 筋力増強訓練②					トレーニングの原理・原則について説明できる。関節角度特異性を考慮して単関節の筋力増強訓練を実施できる					
4	筋力増強訓練③					目的動作内での筋の収縮特性を考慮して単関節での筋力増強訓練を実施できる。求心性、等尺性、遠心性。					
5	モーターユニット、サイズの原理、筋線維タイプ、神経支配比とパフォーマンス					モーターユニット、サイズの原理、筋線維タイプ、神経支配比とパフォーマンスについて説明することができる。					
6	パフォーマンスアップのためのトレーニングの流れ					パフォーマンスアップのためのトレーニングの流れについて説明することができる					
7	フォーム改善（運動学習）					フォーム改善に必章な理論について説明することができる					
8	中間試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握し、理解度を深める					
9	コーディネーショントレーニング（協調性）					コーディネーショントレーニングに必要な理論について説明することができる					
10	ストレッチ					ストレッチについて説明することができる 筋の起始・停止からストレッチを考えることができる					
11	静止膜電位、活動電位					静止膜電位、活動電位について説明することができる					
12	伝達、筋収縮					伝達、筋収縮について説明することができる					
13	EPSP・IPSP、空間的荷重・時間的荷重					EPSP・IPSP、空間的荷重・時間的荷重について説明することができる					
14	力学					基本的な力学的な計算を行うことができる					
15	期末試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験を行う 筆記試験は中間テストおよび小テスト（50点）・期末テスト（50点）の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 舞授業において重要事項についてはメモを取ること					